

## 第16回「葛生ワンダーランド」



11月23日、葛の里壱番館で第16回となる「葛生ワンダーランド」が開催されました。

会場では、三陸のホタテなどが販売されたほか、吉澤記念美術館で展示された伊藤若冲の《菜蟲譜》にちなみ、《菜蟲譜》に描かれた野菜やキノコで作られた「菜蟲譜なべ」がふるまわれました。

大根、人参、白菜など多くの野菜とキノコが入った暖かく素朴な鍋を、来場した方はおいしそうにいただいていたいました。

## 市制10周年記念 第10回 さのマラソン大会



12月14日に開催され、運動公園陸上競技場をスタート・ゴールとして、フルマラソン・5キロ・2キロの3コースで実施され、市内外からの3,300人を超えるランナーが佐野路を走りました。

今年も多くのボランティアスタッフにご協力いただいただけでなく、沿道での応援や交通規制など、市民の皆さんのご協力を得て、無事終了しました。ありがとうございました。

## 唐沢山城跡むかで(ゴミ)退治

12月7日、第4回目となる「唐沢山城跡むかで(ゴミ)退治」が、唐沢山周辺の8町会(奈良淵町、田之入町、富士町上・富士町下、大栗町、菰川町、栃本上町・



栃本下町)の呼びかけにより行われ、約580人ものボランティアが集まりました。参加者は国指定史跡である「唐沢山城跡」を綺麗にするため、栃本町・富士町・奈良淵町の3つの道に分かれて、ムカデに見立てたごみを拾い集めました。

集められたごみは可燃ごみが約1,180キロ、不燃ごみが3,860キロ、粗大ごみとして、タイヤ43本、テレビ7台、冷蔵庫1台など。道の脇に捨てられたごみをクレーンなどを使いながら拾い上げました。



## 関東高等学校駅伝競走大会



11月22日、関東高等学校駅伝競走大会が、佐野市運動公園陸上競技場を発着・中継点とし、その周辺コースで開催されました。

7区間42.195キロで争われた男子では、佐野日大高校が2時間8分28秒で6位に入賞。佐野日大高校は同じコースで開催された県大会では3位でしたが、この大会ではその日の記録を1分32秒更新。北関東地区に与えられる特別枠を勝ち取り、2年連続15度目となる都大路(京都市での全国大会)への出場を決めました。

植松主将は「県大会での悔しさをバネに今大会に臨み、最高の結果を出せて嬉しい。全国大会でもチーム一丸となって全力を尽くしたい」と、力強く話していました。



## 職業体験 「あそキッズ」

あそ商工会青年部さんの恒例のイベント職業体験「あそキッズ」が開催されました。青年部では「さまざまな職業があることを子どもたちに伝えていきたい」という思いから毎年開催しているそうです。

5年目を迎えた今回は、約240人の子どもたちが、大工さん・クロス屋さん・ネイリスト・パティシエなど12の職業の中から、自分で選び、直接プロの方から指導を受けながら体験しました。

大工さんに挑戦した男の子は「高い所はちょっと怖かったけれど、だんだんと家の形になっていくのがおもしろかった」。パティシエを選んだ女の子は「一人で作ったことがないので申し込みました。とてもおいしく出来たので、家でも作ってみたい」と話していました。どの子どもたちもみんな、初めは難しそうにしていたようですが、徐々に慣れて、とても楽しそうに仕事に励んでいました。

子どもたちにとって、実際の職業を体験することができて、将来の夢を考える1日となったようです。(市民記者 山口万里子)



## 新庁舎の完成が 楽しみです

工期がすこし延期になったそうですが、地下1階・地上7階・延べ約20,400㎡の新庁舎が今年(平成27年)完成します。

間近でみた躯体工事の規模や大型クレーンなど重機の大きさに驚いていましたが、いつの間にか7階までの鉄骨が組みあがり、新年早々にも外装工事に入るそうです。

新庁舎にはバリアフリーでユニバーサルデザインが採用され、免震構造が取り入れられたほか、雨水利用やソーラーシステムが取り入れられます。庁舎内には市民が多目的に利用できる(仮称)市民活動スペースや、人・光・風が行き交う通り庭が設けられるほか、屋外にはイベントなども行える広場が作られるそうです。

遠くからでも見えるようになった外観を眺めながら、内装の進み具合を想像するとワクワクしてきます。庁舎の完成がいまから楽しみです。

(市民記者 田島広子)

## 福島恒久・戸倉英雄作品展

11月29日から2週間、佐野市市民ギャラリーで、福島恒久・戸倉英雄 作品展「フレスコ画から日本画まで」が開催されました。

4年前から田沼在住の福島さんと京都から通っている戸倉さんは東京藝術大学大学院の同級生で、さまざまな分野の人が集える天目塾を主宰しています。

フレスコ画は、画面に塗った漆喰がフレスコ(新鮮)つまり生乾きの状態の時、水または石灰水で溶いた顔料で描く技法です。石灰を使うので葛生と縁があるのも納得です。

お二人は栃木県石灰工業協同組合の主導のもと、平成18年から佐野市立葛生伝承館の西側壁面に巨大なフレスコ画を制作中で、制作途中の壁画をご覧になった方もたくさんいらっしゃるかと思います。完成は平成32年頃の予定とのことで、約15年もかかるというから驚きです。佐野にもガウディのように長い年月をかけた建物(壁画)が出来あがるのかと思うと完成がとても楽しみです。

完成のあかつきには、佐野の名所の一つとして市立吉澤記念美術館の「菜虫譜」と共に大勢の方々が見に来てくださることでしょう。(市民記者 永倉文子)

